別紙２

2060年までの東京の人口・世帯数予測について

平成３１年４月１９日
政　策　企　画　局

予測の趣旨

□ 将来想定されうる**人口**や**世帯数**の推移を長期的に把握

□ ２０１５年国勢調査をベースに東京都、区部、多摩・島しょ別に２０６０年まで予測

※ 2040年までの推計は、「東京都世帯数の予測（東京都総務局 2019年3月）」による。それ以降は政策企画局による推計

□ 新たな長期計画（仮称）策定のベースにするとともに、都の政策立案や事業実施などの基礎データとして活用

予測結果の概要

○ 東京都の総人口（2015年 1,352万人）は、**2025年1,417万人でピーク**を迎え、以後減少し、2060年には1,192万人へ

- 2018年の推計と比較し、ピーク年は変わらないものの総人口が上方修正（約９万人増）
- 区部は2030年、多摩・島しょ部は2020年と、人口のピーク時が異なる
- 『社会増の縮小』と『自然減の拡大』により、2025年以降、人口減少過程に入る
- 年少人口は2020年、生産年齢人口は2025年まで増加し、以後減少へ

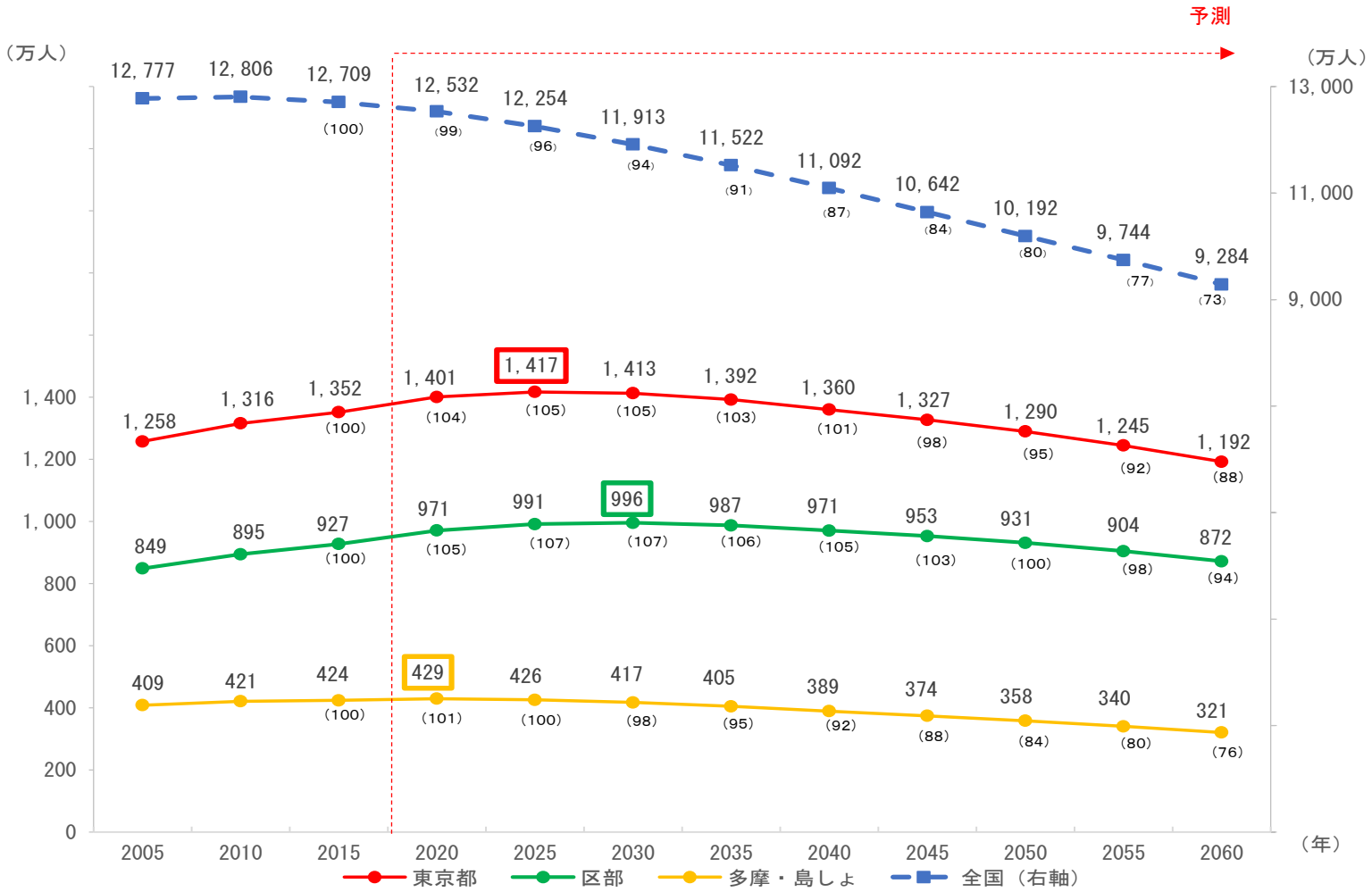
  老年人口は2015年の307万人（高齢化率22.7%）から、2050年に399万人（同31.0%）へ増加

○ 東京都の世帯数（2015年 669万世帯）は、**2035年に724万世帯でピーク**を迎え、以後減少し、2060年は643万世帯へ

- 単独世帯の割合は2035年に初めて50%を超える見通し
- 高齢世帯（世帯主が65歳以上の世帯）数は、2050年の265万世帯まで増加傾向で推移

全国と東京都（区部、多摩・島しょ）の人口の推移

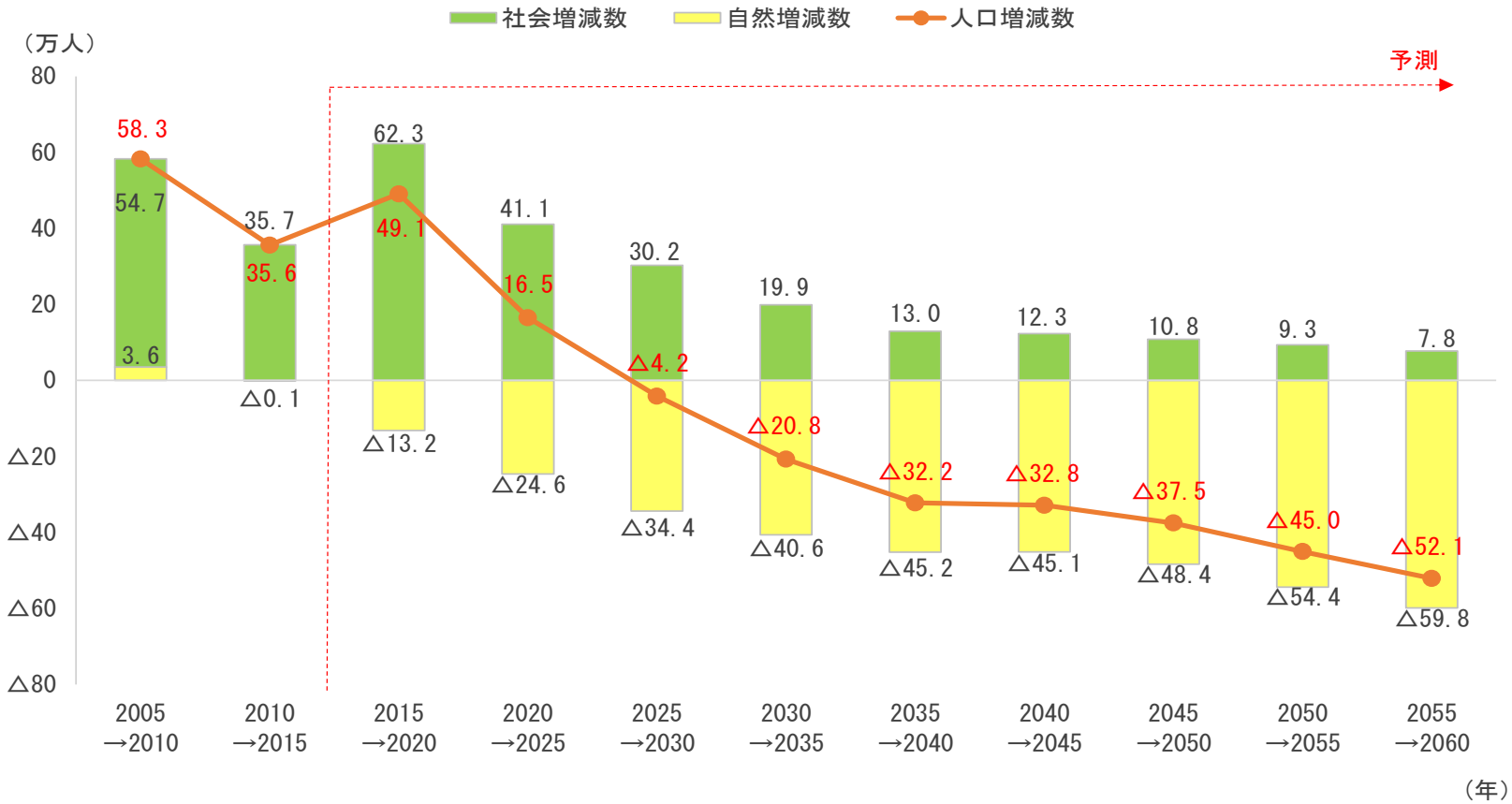
○ 全国の人口が減少する中(２００８年以降）、東京都の人口は増加を続け２０２５年１,４１７万人でピーク
○ 東京都の人口は２０６０年１,１９２万人となり、２０１５年と比較し、１２％減少
○ 区部は２０３０年９９６万人、多摩・島しょは２０２０年４２９万人でピークを迎え、以後減少へ



※括弧内の数値は2015年値を100とした場合の指数

東京都の要因別人口増減の推移

『社会増の縮小(≒東京への転入者減)』と『自然減の拡大(≒死亡数＞出生数)』により、２０２５年以降人口減少過程に入る

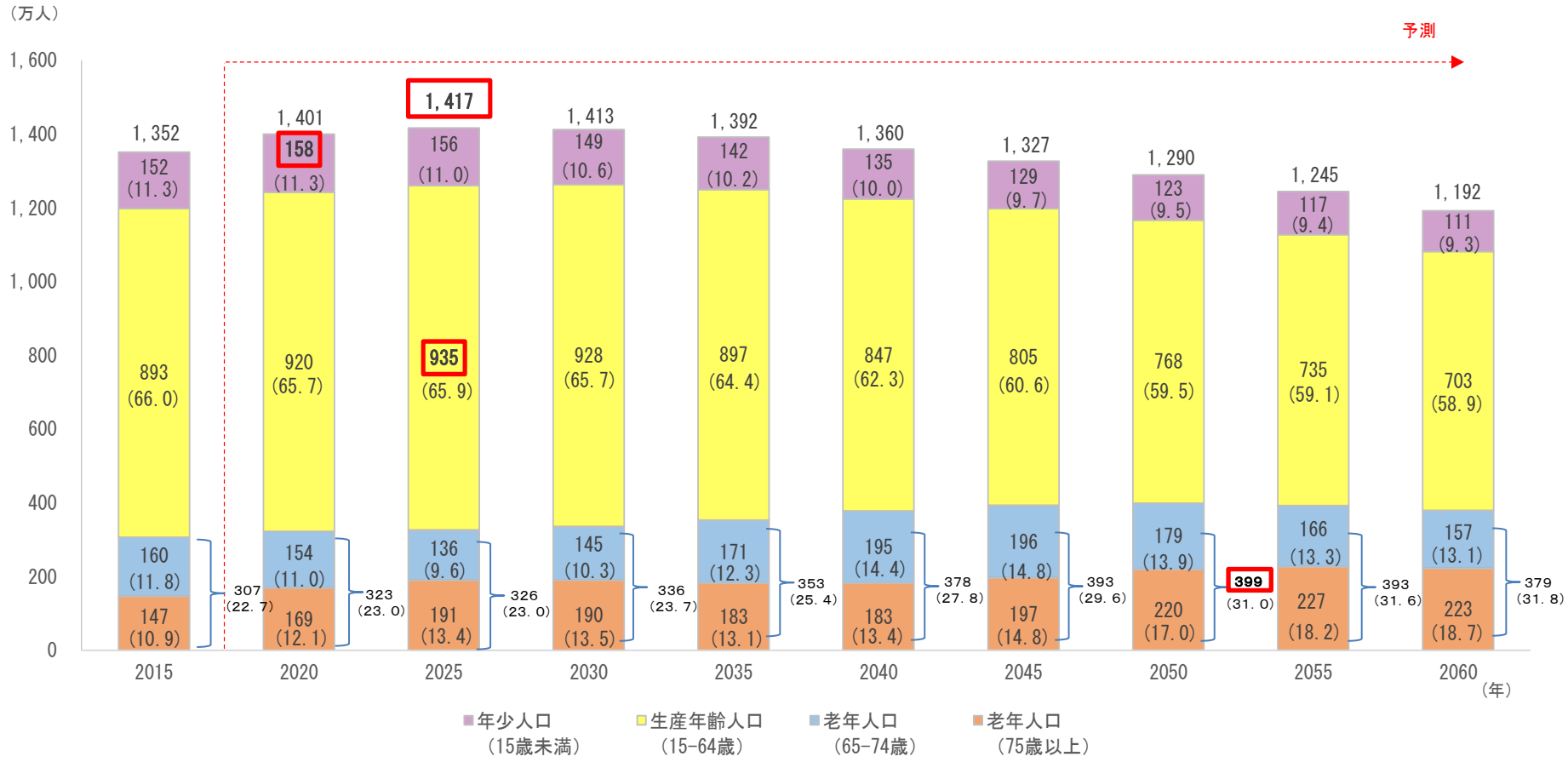


○ 社会増減数 ⇒ 全国的に人口減少が進むことから、今後都内への転入者数は減少し、社会増は縮小

○ 自然増減数 ⇒ 2025年に団塊の世代が75歳以上、さらに2050年に団塊ジュニア世代が75歳以上となることで高齢層の死亡が増大し、自然減が拡大

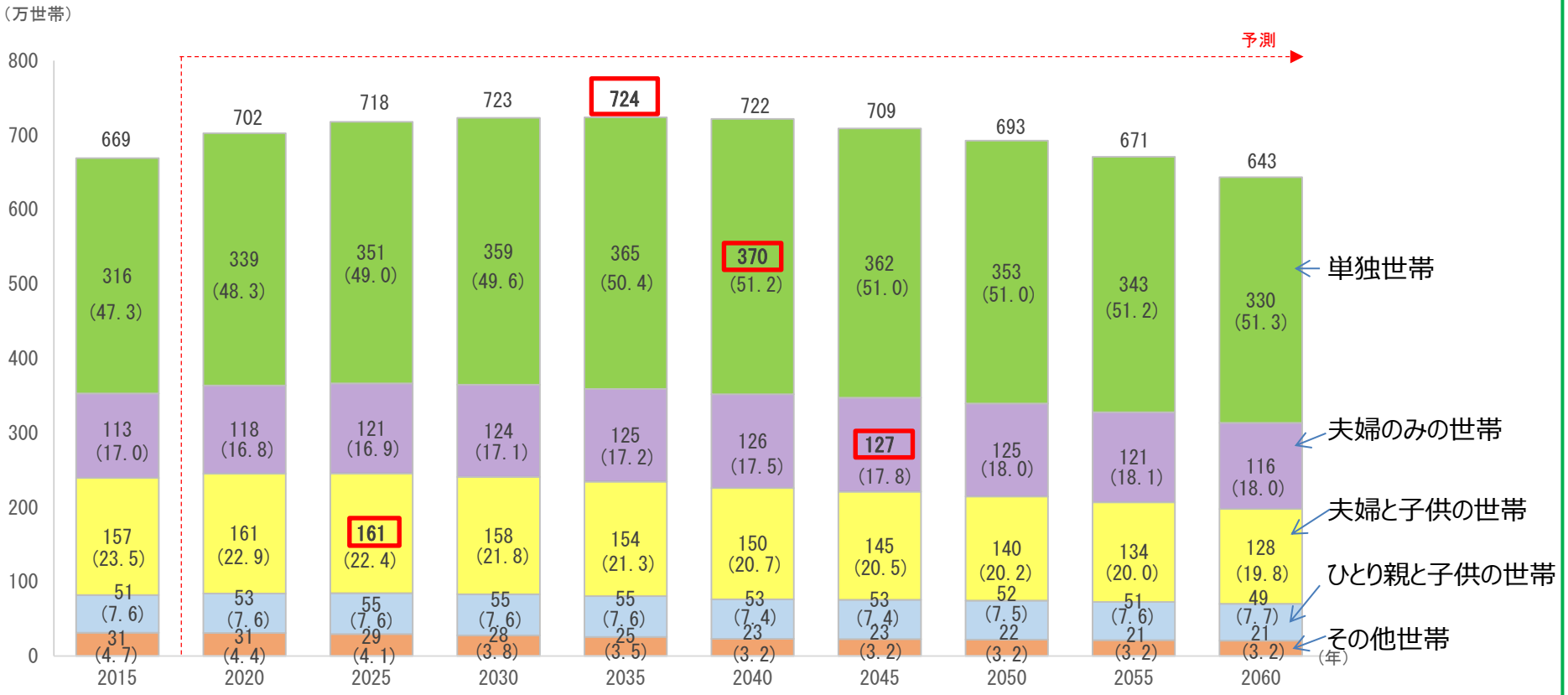
東京都の年齢階級別人口の推移

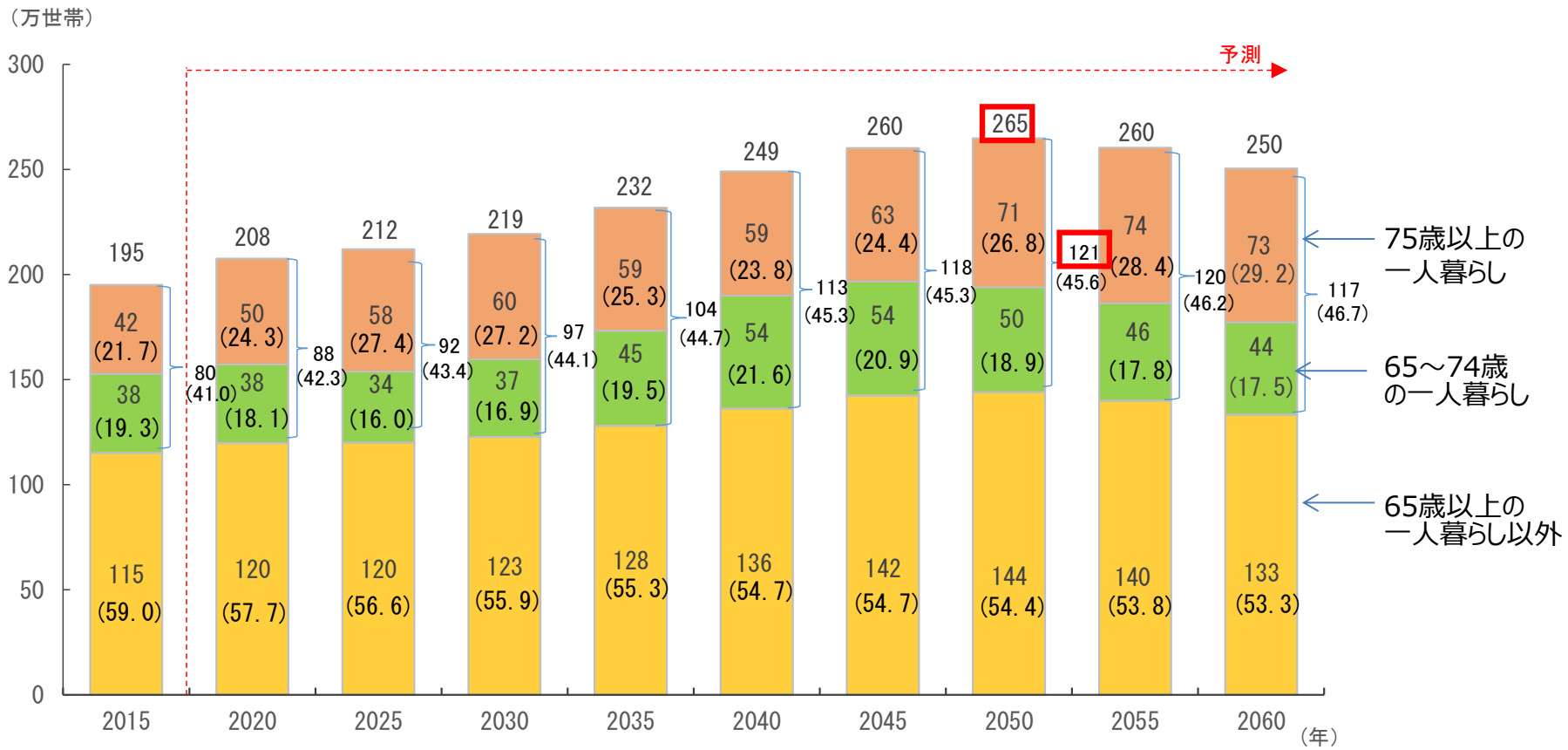
○ 年少人口は２０２０年、生産年齢人口は２０２５年まで増加し、以後減少へ
○ 老年人口は２０１５年：３０７万人　⇒　２０５０年：３９９万人へ増加
（高齢化率２２.７％）　　（高齢化率３１.０％）



東京都の家族類型別世帯数の推移

○東京都の世帯数は増加を続け、２０３５年７２４万世帯でピーク
　うち　単独世帯数は２０４０年の３７０万世帯でピーク
　　（世帯数に占める単独世帯割合は２０３５年に初めて５０％を超える）
　　夫婦のみの世帯数は２０４５年の１２７万世帯でピーク
　　夫婦と子供の世帯数は２０２５年の１６１万世帯でピーク



東京都の高齢世帯（世帯主が６５歳以上の世帯）数の推移

○高齢世帯は２０１５年：１９５万世帯⇒２０５０年：２６５万世帯まで増加傾向で推移
（うち高齢の一人暮らしが２０１５年：８０万世帯⇒２０５０年：１２１万世帯へと増加）
○２０６０年には高齢世帯の４７％が一人暮らし、そのうち７５歳以上が６割超